

意見陳述書

平成19年2月7日

東京地方裁判所民事第38部A1係 御中

原告番号

松嶋 智

私がアマチュア無線に興味を持ったのは昭和34年中学2年生の頃でした。当時、アマチュア無線局を開局するには、国家試験に合格するのは当然ですが無線機を自作しなければなりませんでした。従ってその頃の秋葉原は今と違って米軍放出品の電子部品を物色する電波少年、ラジオ少年が沢山おりました。そのようなアマチュア無線を志す者、オーディオを志す者が秋葉原を育てたと言っても過言ではないと思います。そして、その技術者達が現在のエレクトロニクス技術の基礎作りに大きく貢献したことは間違い無い事実であります。私もエレクトロニクスの世界に身を投じ62才の現在も現役で仕事をしております。そして、アマチュア無線も47年間楽しんできました。世の中が真空管の時代から半導体、コンピュータの時代になっても、決して飽きる事は有りません。長いアマチュア無線の歴史の中でアマチュア無線が社会に貢献した技術は大きなものがあります。特に短波帯の周波数を使った遠距離通信の確立は特筆するに値する発見であります。アマチュア無線の大きな醍醐味が短波帯の周波数を使った遠距離通信です。皆さんは信じられない事かもしれませんが、僅か1Wという小さな電力で地球の裏側の国と交信することも出来るのです。1Wという電力は懐中電灯のランプを光らせる程度の電力です。確かに1Wという電力での交信は楽では有りません。しかし、電離層反射という大自然の力を借りる事によって、いとも簡単に可能になってしまいます。そのような微弱な信号が地球の裏側まで届いた事に大きな感激が有るのです。アマチュア無線という趣味は不可能とも思われることに果敢に挑戦している技術集団です。そのような技術的実験、

微弱電力による交信にとってノイズは大きな妨げとなってしまいます。

それでは PLC はどうでしょうか、2MHz から 30MHz という広い短波帯の周波数を使用している為、電灯線から漏洩した電波が電離層で反射され、思わぬ所に届く危険性が有ります。その周波数は特定の周波数でなく 2MHz から 30MHz という広帯域でばら撒かれると言う危うさであります。なにも知らない PLC ユーザーがどこかの国の重要な短波帯利用設備に妨害を与えてしまう加害者になりかねません。

アマチュア無線家は法律で定められた僅かな周波数を、定められた電力で楽しんでおります。従ってその周波数はアマチュア無線専用の周波数であり法律で保護されなければならない物であります。

私はこの素晴らしいアマチュア無線を是非、青少年にも薦めたいのです。昨今の子供たちが引き起こす、いじめ、自殺、等々の社会問題を見聞きするにつけて思うのは、今の子供たちには何かが足りないと言う事です。その足りないもののひとつに大人とのふれあいの無さではなからうかと思えます。今の子供たちにとって大人とのふれあいは学校の先生と自分の親位しか居りません。皆さんもよくお分かりのように子供の成長過程で大人との交流、ふれあいは不可欠なものであります。

そこで私は子供たちにアマチュア無線を薦めたいのです。無線を通じて積極的に大人との会話、交流を持って欲しいのです。私は今、高校2年生の少年とアマチュア無線を通じて交流があります。彼との交流は彼が中学2年生の時からです。

彼の名は F 君といい私の隣の市、平塚市に住んでおります。彼はアマチュア無線を楽しんでいくうちに持つ疑問を聞く為に、良く私を訪ねてきます。何故電波は飛ぶのか、僅かな電力で地球の裏まで届くメカニズムはどうなっているのか、等その疑問は電子技術に留まらず数学、物理、化学、自然科学、英会話、地理、等多岐に渡ります。

そうです、アマチュア無線に興味を持つと実に様々なことに興味を持つことになります。中学2年生と60歳のオヤジが同じ趣味で時間が経つのを忘れて様々な話をします。

そんな中で F 君は多くの事を吸収してきたはずです。特に無線を通じての会話では、伝えたいことをはっきり発音し、敬語もきちんと使う話し方をすれば、中学2年生でも大人扱いをしてくれると言うことです。今では F 君の父親もアマチュア無線に魅せられて親子でアマチュア無線を楽しんでおります。

各アマチュア無線局はその国の主管庁、日本の場合総務省が指定した世界に唯一つのコールサインを持っております。コールサインは各自の身分証明書の様な物です。交信する時は必ずそのコールサインを使用しなければなりません。従って携帯電話やパソコンを媒体とした交流で発生する大きなトラブルはアマチュア無線の世界では有りません。それは電波法を遵守し、お互いを尊重しあっているからです。

アマチュア無線の世界は男女の差、年齢の差、宗教の差、人種の差、貧富の差は有りません。まして、障害の有り無しの差別など有りません。全世界全ての局が平等なのです。

このように素晴らしい趣味を若い人達に伝えていく義務が我々には有ります。

その時、ノイズに汚れた電波環境では魅力も半減です。そのような事態は何としても回避しなければ、ならないと考えております。